

区政を聞く 一般質問(要旨)

詳しい内容は、会議録(11月下旬発行予定)をご覧ください。会議録は、区議会公式サイトや区政情報コーナー(区役所3階)、図書館などでご覧になれます。

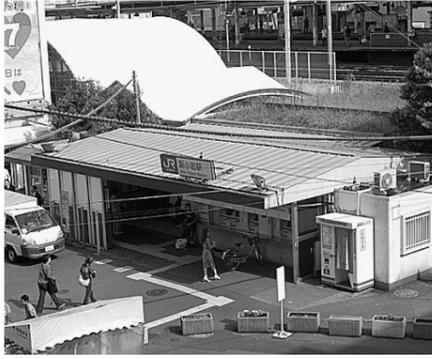
区でも体系的に同大学と連携する必要があるのではないか。

答 平成25年度の開設に向け、科学をテーマとした科学技術センターを大学の区民開放施設内に整備するので、同大学の機能や特性を活かした連携プログラムを今後大学側と協議する。また、本区の実態に合わせたパートナーシップの構築を検討する。

新小岩駅周辺のまちづくり

問 南北自由通路、北口駅前広場の整備に向けて、駅周辺の課題を整理し、地域と連携しながら駅周辺のまちづくり構想を積極的に進めていくべきと考えるが見解を伺う。

答 駅周辺の商業の活性化などの課題を整理し、新小岩駅周辺の発展を目指した、まち全体の将来像を描くため、今年度まちづくりの基本構想を策定していく。



新小岩駅北口周辺

問 北口駅前広場における歩行者の動線や緑地の確保などの課題を解決する必要があるが、整備の基本的な見解を伺う。また、緑地が全くない状況は芳しくないで、緑地を確保する必要があると思うがどうか。

答 まちづくりの基本構想を策定していく中で、地権者との合意形成を図りながら北口駅前広場の再整備の検討を進める。また、歩行者の動線や緑地の確保など、北口にふさわしい駅前広場空間を創出していく。

※他の質問項目 新小岩、金町間のバス路線 など

区民の意見を区政に反映させる広聴機能の充実を

区役所の広聴機能

問 すぐやる担当課や区長との意見交換会に、区民からどのような声が寄せられ、対応できるようにしたのか。答 すぐやる担当課の受付件数は1千600件を超え、区民の意見・要望に迅速に応えたと評価された。意見交換会には、新小岩北地区センターなど2会場合計で22名の参加があり、様々な意見をいただいた。今後も、直接区民の声を伺う取り組みを継続的に、これからの区政運営に活かし、区民の区政に対する信頼を深めていく。

問 本区もコールセンターの開設に加え、区民の声を聞く広聴機能を充実させるための組織を設けてはどうか。

答 今後、区民の声を受け止める窓口の充実が課題である。コールセンターの円滑な運用と併せて、広聴機能を担う組織のあり方について検討する。問 札幌市の広聴リポーターなどを参考に、本区でも新たな広聴機能を導入すべきと思うが、どうか。

答 大学生を活用した広聴リポーターについては東京理科大学との事業連携の中で検討する。

金町駅北口のまちづくり

問 葛新40号沿いの歩道の整備は喫緊の課題であるが、区の見解を伺う。

答 大学の開設に向けて、駅北口西側バス通りの街路樹・商店街灯の撤去・移設や街路灯の電柱共架化などを行い、歩行空間の確保に努めていく。

問 金町駅北口の交通網の整備に関して、駅や商店街の利用者の意見集約とその方向性について伺う。

答 将来に向け、より利便性の高い広域生活拠点とするための交通網の整備に関し、地元自治会や商店街などのほか、駅や商店街の利用者の意見集約を図り、都市基盤の充実に努める。問 東京理科大学の開校により、若い世代にとって魅力的な街を作るため、

そういう世代の声を今後の方針に反映させるべきと思うがどうか。

答 駅周辺の街づくりの話し合いの場に、地域の若い世代にも参加してもらおう。ほか、東京理科大学の学生の意向などを反映させながら街づくりを進める。

葛飾区議会公明党

産学公連携と 中川右岸沿いの街づくり

問 東京理科大学のキャンパス開設を契機として、高い技術力を持つ中小零細企業が集積するという本区の特徴を活かし、全国に発信できるような産学公連携の取り組みを積極的に進めるべきと考えるが、見解を伺う。

答 東京理科大学が開学を迎えるまでの間、具体的な産学公連携のあり方を検討していくとともに、大学・区内産業界双方のニーズやシーズを十分に把握研究していくことが重要であり、同時に、大学の教授や研究員などと区内産業界との交流を深め、お互いの知識や技術の共有を図っていくことも不可欠である。そのため、専門家によるニーズ・シーズの分析や産業界の意向調査、町工場の見学や意見交換会などを来年度から実施できるように、検討していく。

※他の質問項目 共同研究・共同開発 スペースの整備 など

(仮称) 科学技術センター

問 2年半後のオープンを控え、今の時点でなんとでもソフト面の取り組みが大事である。早急に専担組織を設置し、現在の科学教育センターとの連携や、東京理科大学との協力体制について具体的に検討していくべきと考えるが、見解を伺う。

答 オープンに向けて、内装工事や展示機器の検討、東京理科大学との運営協議など取り組みなければならぬ業務がたくさん出てくるので、今後専担組織の設置を含めて、準備体制を整えたいと考えている。

3人乗り自転車

問 アンケートの実施状況、調査結果について、調査結果から今後どのような方向で3人乗り自転車支援に取り組んでいく考えか、伺う。

答 本年6月に、アンケートを実施した。調査結果として、「3人乗り自転車に乗りたい」が51.7%。また、区の支援が必要だと思うことは「購入費の助成」58.2%、「レンタル」27.0%となっている。アンケート結果をもとに、子育て家庭が利用しやすい制度を構築し、来年度に実施できるように準備を進める。

知的障害者の卒後対策

問 次期葛飾区障害者施策推進計画の中に通所施設の整備についてしっかりと位置づけ取り組むべきと思うがいかがか。

答 障害者通所施設を整備する社会福祉法人を支援するなど、必要な対応策について、来年度、本区の新たな障害者施策推進計画を策定する中で検討していく。

中川右岸沿いの街づくり

問 青戸二丁目から立石八丁目付近の中川堤防の耐震化工事にあわせて行われる親水護岸について、いづら整備される見通しなのか。



中川親水護岸

答 上平井水門から高砂橋間の中川堤防の護岸は、平成19年度工事に着手し、本年7月、上平井橋から平和橋までの左岸について、耐震化にあわせて

進めていたテラス整備が完了した。この工事は、上平井水門から上流部へ進め、工事着手から完成まで10年程度を要する。青戸二丁目から立石八丁目付近の整備は、平成27年度から28年度が想定される。

問 青砥駅と東京慈恵会医科大学付属青戸病院間の連絡バス運行の今後の見通しについて伺う。

答 青戸病院の建替えを契機に、青砥駅から病院への小型バスを利用したバス路線導入の検討を進めている。しかし、青戸七丁目地区の集合住宅建設工事が新病院建設と併せて進められることとなり、周辺地域において工事車両の増加が予測される。については、病院側の仮バス待機所や巡回広場の確保、ルート途中のバス停の選定など、課題解決に向け関係者と協議を進め早期の運行を目指す。

※他の質問項目 中川大橋脇堤防の「水上上注意を要する箇所」改善工事 など

学校ICT化推進計画と 金町駅周辺の街づくり

児童虐待

問 来年度開設予定の「子ども総合センター」では、子どもの健康や障害、家庭環境などの情報を統一して管理するなど、虐待にいたる要素、芽を事前に摘んでいく場として大いに期待する。「子ども総合センター」の具体的な対応策を伺う。

答 児童虐待の防止や障害乳幼児の早期発見など、妊娠、出産から乳幼児まで福祉と保健が一体となった(仮称)子ども総合センターを来年度に開設予定している。センターでは、乳幼児健診時や「こにちは赤ちゃん事業」での産後うつ、育児不安の発見、相談や家庭状況の把握、子育てひろば事業の中で気になる親子の発見など、専門スタッフによる相談体制を確立し、児童虐待の早期発見、早期対応に努める。

※他の質問項目 児童相談所の都から区への移管 など

学校ICT化推進計画

問 学校ICT化推進計画について、現在の進捗状況と今後の展開と「教育の情報化」により、本区で期待される教育的効果について伺う。

答 今年度中には、校内LANの敷設やICT機器の設置を終え、すべての普通教室でインターネットなどのネットワークに接続できる環境を整える。また、教員1人1台のコンピュータを導入して「葛飾区学校教育総合システム」をスタートさせる。今後は、普通教室での児童生徒利用のコンピュータの導入、電子黒板の整備を進める。「教育の情報化」による効果は、「情報活用能力」の育成が図れると考える。また、「校務事務の効率化」により教員が子どもたちと向き合う時間の増加などを期待している。

※他の質問項目 フューチャースクール 推進事業 など

京成金町線の利便性拡大と京成本線の鉄道立体化

問 高砂駅の金町線ホームが高架化されたが、現在の利用状況をどのように認識しているのか。また、京成本線が立体化された際には高砂駅舎の構造は改善されるか伺う。

答 金町線高架化工事は、高砂駅付近の「開かずの踏切」をこれ以上悪化させないため、当面の対策として実施されている。これにより、金町線と本線乗り継ぎが必要がある利用者は一回改札を出なくてはならない不便がある。一方で、本線との分離により平日9本、休日10本の増便となり利便性の向上も図られた。駅構造については、将来の鉄道立体化の際に、全面的な改築となるのが想定されている。

※他の質問項目 京成本線の高架化の早期実現 など

金町駅周辺の街づくり

問 金町六丁目駅前地区市街地再開発事